琉球大学学術リポジトリ

馬鈴薯の栽培：来春の食糧飢餓に備えて

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-05-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 又吉, 盛忠 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/19583

馬鈴薯の栽培

〔來春の食糧飢餓に備えて〕

戦前ほとんどその栽培を見なかつた馬鈴薯も、戦後は急速に栽培が一般化され、何れの農家も面積に多少の違いはあるものゝ一応馬鈴薯になじまれているので、今更くどくどしく、その栽培法について繰り返す必要はないと思いますが、作物の特性を深く知り、これを充分生かすように、肥培管理を行つてこそ最高の収益をあげる事が出来るので、以下農業研究指導所で発表されている耕種梗概の順をおい點足を加えることにします。

一、連作はさけましよう。

馬鈴薯はナス科の作物で、青枯病、疫病等の畑土から次々に伝染する病害にかゝり易い作物であります。

疫球は気温や湿度がこの種の病菌の発生や蔓延に大変都合の良い条件にありますので、連作しますとこの種の病害による被害が少くありません。又馬鈴薯が短期作物である関係で、その栽培中に吸い上げる肥料要素も一方にかたより、生育に必要な要素が極度に欠乏して、成果が良くありません。

病害の面からも、収量の面からも、連作にならない様に、計画的に畑を選定しましよう。

二、畑の準備は早目にしましよう。

一般に農家の行つている畑の準備作業を見ますと、庭先に種薯が持ち込まれてから、西側の甘藷跡にしようか？南側のそ菜跡にしようか？と畑の選定にとりかゝり、畑の耕起、植溝切り、植付と実にスピードのある作業が多い様です。

ところで馬鈴薯は百日内外で勝負を決めねばならない短期の作物で、主茎が二、三寸位伸び、葉にまだ紫色が現はれている頃すでに地下茎の先端には仁丹程度の可愛い薯が出来ているものです。こんなに早く私達にむくいてくれる準備をとゝのえてくれる相手に対しては私達もその誠意をくみ早目に畑の準備に取り掛り充分畑土を風化させてこそ、馬鈴薯の特性を生かすことが出来ます。

次に畑土の風化という事は、馬鈴薯の肥培管理上、最も大切な土壌、培土作業を効果的に、而も容易にする上からも大切であります。種薯の到着前に余裕もつて畑を耕起し充分風化させた後植溝を切り、肥料も充分畑土になじむ様にして置きましよう

三、種薯は縦切りにしましよう。

種薯には沢山芽がありますが、その内で頂にある芽は、勢も強く、よく発芽し、例外なく丈夫な芽としてスクスク伸びるものです。

種薯は二〇匁を標準に致しますので、これを切つて使う場合は各片に芽が均等に分配されるように気を配り、頂きの芽を必ず一個以上つけるため縦切りにしましよう。

四、植付は広い目にしましよう。

馬鈴薯に限つたことではありませんが、狭い畑に色々の種類の作物を栽培しようとしますと、とかくその植付距りが狭くなり勝です。ところで馬鈴薯は他の作物と違い、一ないし三回に渡つて行う、培土がその収量、品質を大きく左右するものでありますから、充分土寄の出来る広さと云う事を念頭に置いて作業を行うことが大切です。

肥えた畑、脊せた畑で一様ではありませんが、耕種梗概によりますと一尺×一尺が標準になつています。

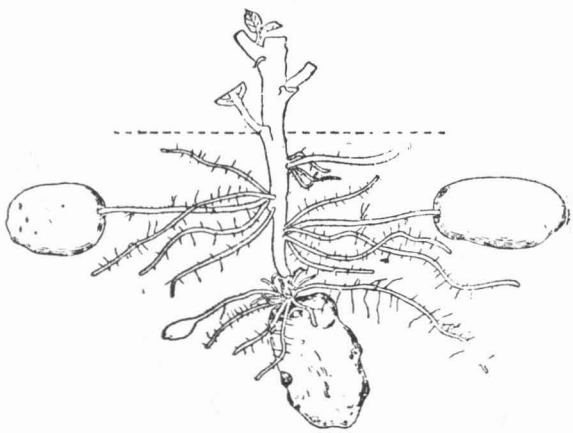
五、加里肥料も充分に使いましよう。

馬鈴薯の収穫物を全部まとめて、（薯も、茎も、葉も、）分析された試験結果を見ますと、多少の違いはありますが、どれもがそのなかに含まれる三要素の量は、加里、、窒素、燐酸と加里が窒素をしのいで多くなつています。

馬鈴薯は短期作物であるため、甘藷では見られない程窒素を必要としますが、これも度が過ぎると、茎や葉がいたずらに繁茂して、薯の形成に悪い結果をもたらします。

加里は馬鈴薯の体内で窒素をしのいで多く含まれている上に、澱粉を作るのに必要欠くべからざる要素であります。

眼に見えて、茎葉にその効果の現はれる、窒素肥料だけにたよらず馬鈴薯が窒素肥料以上にほしがつている加里肥料も充分に使う様にしましよう。



馬鈴薯の根と塊茎

馬鈴薯の燐酸分を吸収する力は相当強く、普通は多量には必要としませんが、燐酸分の欠乏している場所では充分注意し、施肥を忘れない様にしましよう。

六、追肥は早目に終りましょう。

追肥は植付後何ヶ月でも、一般の状況を見ても窒素肥料一点張りになっていますから、施肥の時期を失しますと、茎葉の繁茂にそゝがれ、逆の結果をきたしますから、植付後一ヶ月以内にこれを終るようにしましょう。

七、除けつぼ丁寧にしましょう。

一個の種薯から数本も芽が伸びて来ます。これを放任して置きますと、各々が独立した澱粉工場状態となり、充分に肥料が廻つて来ませんので、薯の太りが悪く商品価値の少い小型薯しかとれません。出来るだけ早目に生育旺盛で健全なもの二本残して、後は抜き取る必要があります。

ところが茎が二三寸程度に伸びた頃には、すでに薯が形を作りはじめていますので、手荒く取扱いますと、傷をつけることが多く、そのため薯の肥大が遅れます。

こうさせないために、一方の手で種薯を動かさない様によく押え、丁寧に付根から抜き取る様にしましょう。

八、ボルドー液を使いましょう。

馬鈴薯の病害にとつて、石灰ボルドー液は特効薬といわれています。

それにボルドー液中の銅剤は、馬鈴薯を刺戟してその生育を促進すると云はれていますので、病害の予防と、生育促進をかね開花前までに二・三回撒布する様に致しましょう。

以上想いつくまゝに、馬鈴薯栽培法に駄足を加えましたが、今年は打ち続く台風で、農家食糧の主軸をなす甘藷の被害が予想以上に大きく、これに総ての期待を掛けるわけに行きません。勿論各農家では、芽出し肥料の施用、秋苗床の準備等万全の策を講ぜられつゝあるとは思いますが、これから冬に向うことでもあり、時期的に見て、甘藷依存にも限度があります。

甘藷に代り、冷涼な気候でよく其の成果を発揮する、馬鈴薯に肩がわりしてもらう事が得策と思はれます。

遠く海を越え、運ばれて来る種薯でもあり、馬鈴薯の栽培に当つては、細かく気を配り、来春の農家食糧飢きんに光明をもたらす様努力に努力を重ねましょう。

（又吉盛忠）

養鶏と飼料

―アメリカの養鶏をみて―（2）

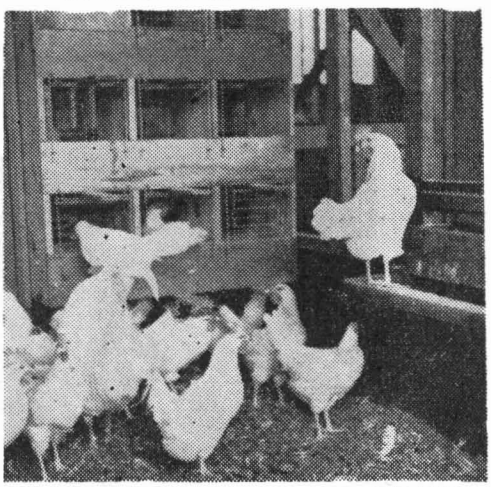
先月号にカリフオルニアの営業養鶏が沖縄のそれに比べて大規模であり、一人で二万三〇〇〇羽は容易に経営管理していけると云ふことを書いたのである。之は勿論、資本が大きく優良のヒナの購入が容易で、飼料価格が割安で、卵市場が大きい等色々の点で有利な面があるからであるが、鶏の飼い方と云う点から見ても非常に差がある。

沖縄では、日本本土の場合と同様、餌を朝昼夕の三回に分けて与え、且毎回次の給餌時間迄に食い尽す程の量を与える。こうすれば鶏は喜んで餌を食い、餌が不経済になる事も少いからである。水も毎日数回取り換えて、いつも新鮮な水を飲ますように心掛ける。尚、鶏舎を清潔に保ち、鶏に対し親切に手数をかけると鶏も熱心な管理に応えて卵を沢山産むと云う考え方である。即ち手数をかけて鶏の管理を行い、産卵能率を上げ、一羽当りの利益を多くすると云う方法である。

アメリカの養鶏家も根本的な考えに就ては吾々と同じであると思うが、然し飼料は自動自給器を使つて与え、水も水道に連結した自動給水器で飲むようになれば人力は非常に省けるようになる。人力が省けるから沢山の鶏を飼養することが出来るわけである。もつと極端に云へば一羽当りの利益は多少落ちてもよいから出来る丈け大羽数を管理し、数の力に物を言わすと云う養鶏管理のように思われた。

鶏と飼料

鶏卵、鶏肉の生産費の六〇％は飼料費であるとアメリカではいわれている。何処の国でも飼料問題が一番の関心事であることに変りはない。



種鶏六萬羽を有すると云うキンバー農場の種鶏舎の一室、（元気な鶏とトラツブネスト）

これから量の面から見た鶏の飼料について、述べてみたい、先づ育雛から産卵開始迄に如何程の餌を必要とするであろうか？鶏の研究で多くの成績を発表し且権威者揃いの米国ニューヨーク州コーネル大学の成績を引用してみると次の通りである。